

令和6年度第1回茨城県図書館協議会 議事録

1 開催日時等

- (1) 日 時 令和6年8月6日(火) 13:30～15:30
- (2) 会 場 茨城県立図書館 会議室1・2
- (3) 出席者 協議会委員：池内委員長、鷺田副委員長、成田委員、高野委員、堀野辺委員、大橋委員、松橋委員、木滝委員、川野邊委員
生涯学習課：中村課長、大森係長
県立図書館：小田部館長、木村副参事兼副館長兼企画管理課長、茂木主査兼情報資料課長、武田主査兼館内サービス課長、杉本主査兼普及課長、重藤情報資料課主査、矢澤館内サービス課主査、鯉淵普及課係長、栗原企画管理課主査

2 協議会内容

- (1) あいさつ等
 - ・小田部館長あいさつ
 - ・池内委員長あいさつ
 - ・定足数報告、日程説明(進行)
- (2) 委員・職員の紹介(事務局から紹介)
- (3) 報告：県立図書館等の概要説明(事務局から以下について説明)
 - ・令和5年度利用実績等について
 - ・令和6年度図書館事業計画について

(事務局)

令和5年度の県立図書館の概要説明等させていただいた。
何か質問、意見はあるか。

(I 委員)

県立図書館は、大学生の利用が少ないように思う。小中高に比べ大学図書館は規模が大きくなる。

今年の春休みに県立図書館は閉館だった気がする。子どもたちが学校がお休みの時に、図書館が開いているということが大事である。利用人数にも関わってくる。

図書館は、4月の初めに、何日か閉じなければならないのか。

(事務局)

4月の最初は、職員研修や、図書整理のために毎年お休みをしている。なるべく休館を減らそうと努力はしているところである。

(I 委員)

学校が始まる頃には開館してくれたら嬉しいと思う。

(事務局)

4月は人事異動があり、10人くらいは新しい職員が異動してくる。総合カウンターに入るための研修で3、4日研修期間をもらっている。

利用者から苦情をもらいながらも、1か月は研修期間として指導している。

利用者のために、その研修期間をなるべく短くしようとして、ここ何年かで1日ずつ休館の日数を減らしている状況である。

(C 委員)

小中学校対象の読書感想文コンクール、全国感想文コンクールに応募している。

県立図書館のコンクールでは、今年度最初は、小中学生に募集をかけないで、一般のみとすると聞いた。なぜそうなったのか。研究部の方に落ち度があったら申し訳ない。

学校図書館の支援事業は有難い。行方市は支援をいただけたら有難いと考えている。手をあげれば、教育委員会を介しての支援をいただけるものか。

(事務局)

学校図書館支援パック（1パック40冊から50冊：国語の学校ごとの支援パック半年から長期の貸出）の申出があれば、初めての学校であれば、当館から届けることもできる。

守谷市では、守谷市立図書館で借りて、市内全体の小中学校図書館にまわして回転させるというやり方をしている。そのような図書館もある。

令和5年から新しく不登校対応の貸出パックを作った。市町村でも施設でも50冊単位で貸出する。市町村によっては取りに来るが、郵送で着払い等の方法も検討中。

市町村の図書館までは相互のネットワークで送ることはできるが、各学校までどうやって送るか、学校が市町村まで取りに来るか、市町村立図書館と相談していく。ご活用いただきたい。

(C 委員)

本を貸してもらえるということ、運営面での人的支援ではないということについて了解した。

(I 委員)

不登校向けのサービスを始めたと聞いた。水戸市内には全校にフリースクールができているが、フリースクール向けのサービスは大丈夫か。

(事務局)

貸出は可能である。子ども食堂も対象である。養護施設や教護施設も対象である。

全ての子どもが、読書に手を出せるような環境を整えていきたい。

ホームページに仕組みを載せている。フリースクールに郵送で送ることも可能。学校パックも可能。いくつかの手段は設けている。搬送便で送ることも可能（水戸市以外）

(事務局)

C委員からの質問について

県の図書館研究部から矛盾しているのではないかと意見をいただいたが、話し合いを行い、手続きはきちんと行い、これまでと同じように小中高も推薦をもとに読書感想文の賞を渡していきましょうという話に戻った。

(C委員)

了解した。

(B委員)

「図書館冷えてます」ポスターがあった。

先日、会議があり、図書館で読書をしていこうと立ち寄ったが、図書館は開館前から長蛇の列だった。開館と同時にたくさん的人が入っていった。勉強する人だけでなく、いろいろな人が入っていく。「図書館冷えてます」の効果もあるのか。

県立図書館は、県民等から愛されていると実感し、嬉しい気持ちになった。

ところで、要覧でレファレンスサービスの充実について、どんなことを考えられているか今行っている対応の流れ等具体的に教えてほしい。

(事務局)

根拠になる情報は何なのか、情報源として、歴史的なものもあるし、図書資料だけではなく、データベースや国会図書館デジタル資料、雑誌、新聞等、見ていく方向が大きい。情報がどこからきているかわからないということが大変である。質問の案件によっては、1か月かかることもある。

図書資料だけでなく、インターネットや相互貸借等で調べることもある。

(A委員)

レファレンスサービスは、県内の人のみ利用可能か。基本的には、県外の人でも、県内のことなら調べられるのか。

(事務局)

他県の人からの質問には、茨城県に関することだけ答えている。

(A委員)

以前に、香川県立図書館の人に香川県のことを聞いたことがある。栗林公園のことを聞いたらレファレンスで教えてくれた。

(事務局)

ベースとなる資料が異なるので、地元のことは、その地元が強い。地元の研究者の調査文献等、その土地にあるものもある。

(4) 議事：令和5年度図書館評価（指標）実績について（事務局から説明）

- ・令和5年度茨城県立図書館図書館評価（指標）実績
- ・茨城県立図書館 評価指標（令和4年度～6年度）
- ・令和5年度茨城県立図書館評価指標に係るアンケート調査結果
- ・令和5年度茨城県立図書館信頼度アンケート集計結果

※令和6年度第1回協議会では、令和5年度の図書館評価（指標）実績について説明を実施し、第2回協議会では、次回の評価の期間令和7年度から9年度にかけての3年間で評価する指標の項目の内容について協議をする予定である。

○協議

(A委員)

事務局から令和5年度図書館評価（指標）実績について説明があった。
何か質問、意見はあるか。

(I委員)

図書館協議会委員になってから、「椅子が足りない。もっと椅子が欲しい。」と言い続けている。図書館は命のセーフティネットになっていると思っている。暑い時だけでなく、寒い時でも人は図書館を利用している。星乃珈琲店でホットコーヒーが飲める人だけではない。本を持って、ちょっとだけ座るスペースが、椅子がほしい。

星乃珈琲店ができてから、ちょっと新聞を読もう、ちょっと雑誌を読もうというスペースがなくなった。パイプ椅子でもいいから椅子がほしい。

午前9時頃、勉強の場所をとろうとする人がたくさんいる。後から来た人は座るところがない。アンケートがあれば、席数のところは不満と書くと思う。

児童書は、休憩コーナーから入れば父母向けの育児書コーナーが見えるが、エレベーター側から行くと死角になっており、見えない。

児童書は大人の人も借りることが多い。一般の人にも、子どもだけじゃない、大人向けの本もあると掲示があるとよい。少し工夫がほしい。

(F委員)

高校時代、1日県立図書館のお世話になっていて、大好きだった。

県立図書館と水戸市立図書館と休館日が同じだった印象があるが、近くにある図書館で、休館日を別の日にしていただいた方が使いやすいと思う。

同じ日に休館だと、お休みを揃えましょうという申し合わせ等があったのか。

(A委員)

茨城県内の図書館で市町村立図書館は月曜日のところが多く、それに合わせた方がよいのではという意識が働いたのではないか。

(E 委員)

水戸市では、水戸市中央図書館は金曜日が休館日で、見和、常澄、内原も金曜日が休館。東部図書館と西部図書館が月曜日休館。休みを分けている。月曜日の利用者は増えている。

(事務局)

2000年以前の記憶だが、市町村立図書館は月曜日休館のところが多かった。そこで、県立図書館も市町村立図書館の開館日での問い合わせに多く答えようと、県立図書館の休館日を市町村立図書館の休館日に合わせた経緯があった。

(A 委員)

和歌山県の海南 nobinos(ノビノス)…TRCの指定管理図書館は、ずっと開館している。

毎週木曜日が職員の休日であり、図書館サービスはしていないが、開館している。

自動貸出機と返却ポストが設置されている。

また、図書館の中にはスターバックスがあり、木曜日も開店している。

図書館には、「毎週木曜日は図書館サービスをしません」と掲示してあり、職員はいない。

しかし、図書館は開いている。そんな図書館もある。

図書館を「場」として使いたい人が増えている。

夏休みに図書館フルサービスを行うのは大変である。サービスを転換するというやり方はありだと思う。「このサービスはしません」という周知は大事である。市町村立図書館で、指定管理であれば、このようなやり方もありだと思う。対面サービスをやらないだけでも、館内での他の仕事を随分することができる。閉館でもやる仕事はある。

「何でサービスしないんだ」と言われて、「職員はいません」という発想はこれまでなかった。開館しているときに、きちんとサービスすればよいのではないかと思う。

(G 委員)

今回の図書館協議会で、議題として図書館評価指標について検討することを拝見した。

レファレンス実施件数、レファレンスデータベース入力件数というものを基本的には増やす方向で目標値設定されているのをどう考えればいいのか気になった。

当然、レファレンスニーズが増えて、それにきめ細やかに対応していけることがベストである。しかし、現実的には、そこに人員をさけるか、人員配置や、時間確保に限りがある中で、県立図書館として、どういう人員をレファレンスに対し配置し積極的に対応するか、そこが図書館サービスの重要なところ、存在意義、役割に直結するところである。そこについて、少し重点的に検討していけばいいのかと考えた。

市町村立図書館への支援について、満足度調査も行っている。

相互貸借の件数が増えることが基本的には望ましいが、これに関し、市町村側がそのニーズをどこまで持っているか、それに対応して数字が変わっていくことと思う。

県立図書館に対し、市町村立図書館のニーズは、変わらない部分と変わっていく部分がある。継続的に検討していくことが必要かなと思った。

(A 委員)

次回そういう議論をする予定である。

目標値をどうやって決めたのか、職員で話し合っただけで決めたと思うが、令和元年、2年、3年の数値や、それ以前の数値を見て決めたのか、決め方は何かあるか。

(事務局)

目標値については、コロナ禍前に戻していこう、その中で、無理のない範囲で、これなら実現可能であろうという数字を目標として設置している。

(A委員)

自己点検評価というものがあるが、大学の評価でもそうだが、まず、「〇〇します」という目標値を作ってしまうから、その評価を自分たちでする。

目標値の〇%という評価をしているが、「入館者」「貸出点数」等、図書館でずっと行っているサービスで、昨年度との比で+ (プラス) 又は- (マイナス) で判断してもよいのではないか。

人間の生命、健康等は、科学的基準値があるが、図書館は絶対的基準みたいなものはない。

えいやっと決めるしかない。これくらいかなと、鉛筆でなめて決めるしかない。〇%としてもややこしくしているだけ。県民から見ると、どこから出てきた数字かわかりづらい。

例えば、基準値を過去3年間の平均値にしてしまう、そこから+〇%になった、-〇%になったという評価をするのが個人的にはよいと思う。公式を作って、全部適用するというのがよい。

まだ今までやっていなかったものを、別途やり方を変えるというのもよいのではないか。

アンケート調査による満足度「85」という数字をまず設定したとして、どんどん数字が上がっていくと、職員が大変になってしまう。基準値の公式を作るのがよい。

自己点検法は、どこでも同じ。昨年度の値、又は過去3年の平均値。基準値を決める公式を明示する。

図書館評価に理想値はない。なぞの目標値が一人歩きすることはなるべく避けた方がよい。

もう一つ、例えば、指標が20個ある。その20個が図書館の望ましい姿をはかるために必要なのか。図書館を利用する人たちのニーズはバラバラである。人によって、年代によって、性別によって違う。多くの人が大事だと思っていること、思っている場所、公共のサービスだから絶対に譲れないこと、利用は少なくても、考えなければいけないこと、そういうことが大事。

次回以降、議論していく。

(I委員)

満足度について言えば、窓口の職員さんは、朗らかで明るくなって、職員さんの対応に満足している。ありがたいと思う。

美術館に行っても、図書館とのコラボレーションがあり、図書館に行ってもこの本を見たいと言うことも増えている。いろいろな美術館等とのコラボがあり、図書館に行ってみたいという人が増えているように思う。コラボレーションは大事だと思う。

「光る君へ」の人気にあわせて、紫式部日記の口語訳を借りて読んだが面白かった。若い世代の本離れを少し取り戻せるのではないか。古典離れを少し呼び戻せるコーナーを作ってもらえたらありがたい。

(F 委員)

水戸に住んでいるが、図書館を使っていないというのが一番の図書館批判ではないか。

(I 委員)

自宅に一番近いのは見和図書館であるが、見和図書館は使わず、県立図書館にきてしまう。

水戸市の図書館を使う人、県立を使う人、地理的要因もあるか。その人によって、使いやすい図書館があるのだと思う。

(F 委員)

水戸市立図書館は、コロナ禍で、一時期入館者が減ったが、元に戻りつつある。

水戸市では、西部図書館がメディアに登場している。

(A 委員)

県立図書館は、戻りつつあるとは言えない。

水戸市西部図書館は、メディアにも登場し、聖地巡礼で訪れる人も多い。図書館戦争だけでなく、いろいろなドラマ等に取り上げられている。

水戸市立図書館の中ではすみ分けがされているのか。児童書は東部図書館がよい等。

(E 委員)

市立図書館の中での特色は、それぞれの館でもたせている。それぞれの図書館での良さがある。児童書が充実しているところもあるが、他図書館で極端に少ないところは1つもない。

それぞれが違う特色があり、水戸市内いろいろな図書館に行ってもらった方がよいと思う。

障害のある方や高齢者へのサービスであるが、水戸市立図書館の基本計画を作るのにサービスをどうするか、検討中である。利用者の要望を知りたいと思う。

(事務局)

大活字本については、利用する人が多い。蔵書数も増やしており、人気の本は配架してもすぐに貸出される。

高齢の方は目が不自由な人が多く、大活字本を借りる人が多い。

視覚障害者のためのデージー資料は、あまり貸出はない。スマホで聞ける等、図書館まで来て借りるという状況ではないのではないか。インターネットで読み上げの機能もある。

(事務局)

補足であるが、実際、障害者がどれくらい図書館を利用しているかという利用実数はわからない。数字を拾うことはできない。

ただし、実際に、朗読CDや落語CD等の出入りは激しく、多くの人が借りている状況であり、中には障害者の利用も多くあると考えられる。朗読や落語等を聞いて楽しむ人も多い。

大活字本は、文字が大きい分、通常単行本で1冊でも大活字本では2～3冊になってしまう等重量があり取り扱いが大変である。

(A委員)

大活字本は、所蔵数を評価するか、利用者数を評価指標として扱うべきか、検討すべき。

こうした資料については、利用に関わらず、所蔵を増やしていった方がよい。

紙の資料が読みづらくなったら、オーディオブック、オーディブル等のデジタルを活用をしてはどうか。

りんごの本棚や、優しい日本語で書かれた外国語資料等、様々な障害のある人々全体に対する利用ストックとして、その利用が多くななくても利用のわかりやすいところに置いてあるのは良いことである。目標として所蔵数をあげて増やしていくことはいいことだと思う。

(F委員)

障害者、高齢者へのサービスに図書パック、高齢施設や介護施設等に対して、読みやすい人気が本をまとめて貸出というものはあるか。

(事務局)

今は特別のサービスはやっていない。以前は病院に貸出ということがあった。

団体向けに貸出はあるが、特に高齢者向けということではない。今後、昔懐かしの資料や昔の遊びの資料等も考えていく。

(F委員)

高齢の方が落語のテープを聞いていたのを思い出し、高齢者施設に落語のCDを定期的に取りに来て貸出できるサービスがあるとよいかなと思う。個々にも楽しめるサービスがあるといいと思う。

(事務局)

検討させていただきたい。

(A委員)

それでは、次回、また評価について話す機会があるので、本日はこの辺で終わりにしたい。

(5) その他

- ・事務局から次回の協議題、その他事務連絡について説明

(6) 閉会